

授業評価アンケートによる講義の検討(2)
— 2004年度と2005年度の比較と学部学科別の検討を中心に —

森 和夫, 調 麻佐志, 福嶋 司, 竹内道雄, 梅田倫弘, 間下克哉
大学教育センター 教育評価・FD部門

Examination of the lecture by the questionnaire of class evaluation(2)
-Comparison of 2004 and 2005, and comparison according to department / subject-

Kazuo MORI, Masashi SHIRABE, Tukasa FUKUSHIMA,
Michio TAKEUCHI, Norihiro UMEDA, Katuya MASHIMO

We perform "a class evaluation questionnaire" for class improvement by teachers. Evaluation objects are graduate school subjects and student subjects. The object subject is "Lecture" that the full-time teacher does. As a result, 373 subjects and 14355 answers were obtained.

The following points were found when analyzed and inquired.

- (1) A class evaluation score improves in 2005 in comparison with 2004.
- (2) There are clear differences by department and subject.
- (3) Class evaluation shows the score that graduate students are higher than students.
- (4) Evaluation does not have differences among part-time lecturers and full-time teachers.

From these results, we examined result of FD and a future evaluation policy.

[キーワード: 授業評価, アンケート, 年度比較, 学部学科別比較, FD]

1. はじめに

東京農工大学では授業評価アンケートを2004年度より、WEB入力調査からOMRカード記入調査に転換して実施した。2004年度は常勤教員の行う講義について、一人1科目を対象に前期と後期に実施した。2005年度はこの調査対象を拡大して、常勤教員および非常勤講師の担当する授業科目を学部科目1科目、大学院科目1科目を選定して実施することとした。「2005年度授業評価アンケート実施要領」を作成して教員に周知すると共に協力を依頼した。この実施要領には授業評価アンケートは次の活動に必要なデータの収集を目的としていることを明記した⁽¹⁾。

- 教員が自らの授業を改善し、よりよい教育を実現するために必要な情報を提供する。
- 本学の状況を把握し、今後の大学運営に必要な施

策を策定するなどの目的で、組織の自己点検評価を実施し、また、第三者による評価(国立大学法人評価、機関別認証評価、外部評価など)を受ける。

- 大学教育センターの常勤教員がセンターの目的に適った研究活動を実施し、学内外に報告する。

授業評価アンケートの結果は、教員評価(ないし個人評価)には使用しないことにも触れている。

対象は、「A)本学で授業を行うすべての教員(非常勤教員を含む)とする。学部・大学院の授業各々で担当する1科目を調査の対象とする。したがって、学部・大学院の双方の授業を担当する教員は年2回、いずれかのみを担当する教員は年1回、その担当授業科目が調査の対象となる。B)調査の対象となる授業科目としては、それぞれの教員毎に可能な限り履修学生数が多いものを選ぶ。しかし、履修学生数が少ない場合でも調査対象とする。C)原則としてオムニバス形式の授業は調査対象としない。」とした。

全貌は前期と後期の集計結果を待たなければならないが、前期実施によって60%程度は完了している。本稿では2004年度前期と2005年度前期実施結果とを用いて検討し、考察することにした。特に2004年度と2005年度の評価の相違点、常勤教員と非常勤教員の評価の相違点、学部科目と大学院科目の相違に注目して考察しようとした。

2. 調査実施の方法

2005年度は調査対象として常勤教員および非常勤講師の担当する授業科目を学部科目1科目、大学院科目1科目を選定して実施した。また、複数の科目を担当している場合には履修登録学生数の多い科目を対象としている。前期の調査実施時期は2005年7月、後期は2006年1月に実施した。調査実施日は授業の最終回に実施するように依頼した。配布した質問カードは教員用回答カードと学生用回答カードの2種である⁽²⁾。学生に対するカードの配布は教員が行い、回答後、学生が教室で直接封筒に入れるようにして回収した。

学生用回答カードの質問項目は多肢選択法による17設問と自由記述による1設問からなる。多肢選択設問は「授業」について[そう思う、まあそう思う、どちらともいえない、あまりそう思わない、そう思わない]の5件法で問うようにしている。2004年度は13設問と自由記述1問としていたが、「欠席の回数」については削除し、「時間を守って授業した」と「授業の目的が明確に示された」、「成績評価の方法は知っていた」、「授業は良く理解できた」を加えた。内容は下記の17問である。①声 が明瞭でよく聞こえた、②説明の仕方、話の展開の仕方は良かった、③授業の進め方の早さは適切だった、④教員と学生との交流があった、⑤黒板の書き方は良かった、⑥教科書や教材の利用が適切で理解に役立った、⑦教員は時間を守って授業をした、⑧授業の目的が明確に示されていた、⑨内容の豊かさは良かった、

⑩内容のレベルは適切であった、⑪授業内容はよく理解できた、⑫興味・関心もあり、意欲的に受講できた、⑬この授業は有意義なものだった、⑭この授業の成績評価の方法は知っていた、⑮予習、復習はよくした方だ、⑯シラバスを見たか、⑰シラバスは学習に役立った。自由記述設問は「その他、この授業の良かった点や悪かった点、要望などがあれば自由に意見を書き入れてください。」に回答させた。

大学院学生用回答カードの質問項目は多肢選択法による17設問と自由記述による1設問からなる。学部学生用との違いは「授業の仕方・態度について」と「授業の内容・構成について」の両面について記述式の設問を設定した。また、大学院生の場合は「授業時間外の学習（予習、復習や関連する内容の学習など）はよくした方だ」のように単に予習、復習に限定しない設問としている。

教員用回答カードの質問項目は学生用と同様に、多肢選択法による14設問と自由記述による1設問からなる。多肢選択設問は学生用の設問と対応させて設定した。この他に設問⑬:授業中の学生の私語や態度への指導、⑭:授業に試用したメディアの内容[板書、プリント、実物、スライド、パワーポイント、OHP、ビデオ、録音テープ、チャート、その他]を設定した。学生に対しては無記名回答とし、教員に対しては記名回答とした。

常勤教員の調査回収数を図表2-1に示した。配布枚数に対する回収率は67.96%である。学部学生について集計すると203科目、履修学生数12899、回収数9059で、回収率は70.23%である。2004年度が77.89%であるので若干の低下が見られる。同様にして大学院生では118科目、履修学生数3251、回収数1916で回収率は58.94%である。大学院生の回収率は学部学生に比較すると低い回収率になっている。配布数は履修登録学生数で配布したために、各科目では増減があり、実際にはこれよりも高率であると考えられる。

図表 2-1 調査用紙回収数（常勤教員）

学部	対象学生	回収科目数	履修学生数	回収数	回収率
農学部	学部	71	4119	2840	68.95%
	大学院	44	759	448	59.03%
工学部	学部	124	8324	5846	70.23%
	大学院	60	1888	1147	60.75%
BASE	学部	8	456	373	81.80%
	大学院	14	604	321	53.15%
合計		321	16150	10975	67.96%

*回収率：履修登録学生数に対する回収枚数である。

図表 2-2 調査用紙回収数（非常勤講師）

学部	対象学生	回収科目数	履修学生数	回収数	回収率
農学部	学部	34	1410	596	42.27%
	大学院	10	244	75	30.74%
工学部	学部	78	4064	2704	66.54%
	大学院	7	365	5	1.37%
BASE	大学院	3	43	0	0.00%
合計		132	6126	3380	55.17%

*回収率：履修登録学生数に対する回収枚数である。

3. 調査結果と考察

3-1. 学部学生による授業評価の全般的傾向の年度別比較

図表 3-1 に2005年前期の学部学生9059名の回答結果を示す。得点が高いほど肯定的な回答を示している。設問1～10の平均値は3.51である。2004年が3.35であるから、若干高くなっている。太字部分は2005年の評価が高い項目である。「声が明瞭」、「説明の仕方、話の展開の仕方」、「授業の進め方の早さ」、「先生と学生との交流」、「黒板の書き方」、「教科書や教材の利用が適切」、「予習、復習はよくした」、「興味・関心もあり、意欲的に受講」の8項目で高い評価となっている。変わらない項目は「内容の豊かさ」、「内容のレベル」、「授業は有意義」となっている。評価が前年を下回った項目は無かった。標準偏差は実施年度による差異はないといえる。従って、分布は類似のものとなっていることを推測される。今年度から

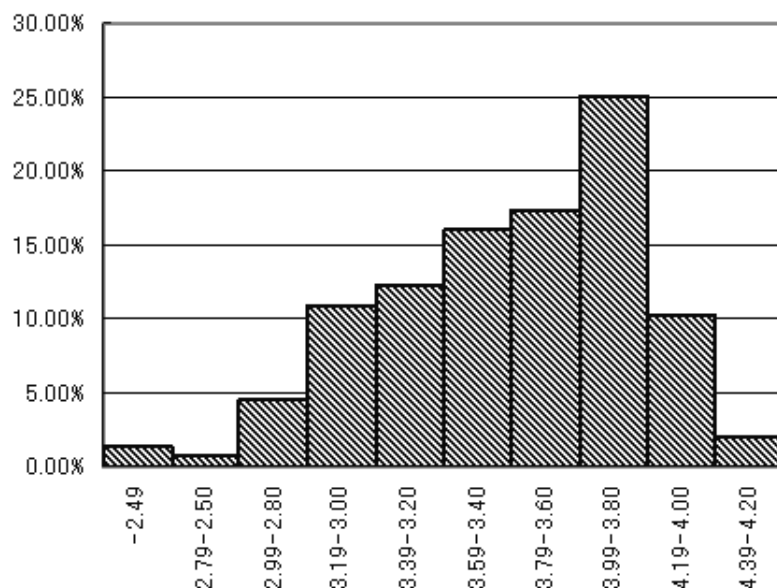
採用した設問についてみると「時間を守って授業した」、「授業の目的が明確に示された」、「成績評価の方法は知っていた」については3.5を越えているが、「授業内容はよく理解できた」については3.5を下回っている。

図表 3-2 に学科所属の常勤教員156名についての全項目の平均得点分布を示した。縦軸はパーセントを表わしている。合計すると100%となる。分布の様子を見ると、2.49未満の得点から4.20付近の得点まで、広く分布している。最も多くの割合を占めているのは3.80～3.99にあり、25%がここに属する。2005年度の分布と比較すると、ピーク位置が高得点側にシフトしていることである。4.00を越えるものも10%程度あることがわかる。これに対して3.00に満たないものが6%程度であることがわかる。得点分布から見ても2005年度と比較して改善はされているが、なお、課題を残しているといえる。

図表3-1 学部学生による授業評価の全般的傾向の年度比較

実施時期	2005 年度前期 N=9059		2004 年度前期 N=11482	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
設 問				
1. 声が明瞭	4.05	1.05	3.75	1.17
2. 説明の仕方、話の展開の仕方	3.70	1.09	3.41	1.13
3. 授業の進め方の早さ	3.68	1.04	3.50	1.06
4. 先生と学生との交流	3.47	1.12	3.17	1.17
5. 黒板の書き方	3.15	1.14	2.98	1.16
6. 教科書や教材の利用が適切	3.41	1.12	3.25	1.14
9. 内容の豊かさ	3.84	0.98	3.85	0.96
10. 内容のレベル	3.67	1.01	3.65	1.03
12. 興味・関心もあり、意欲的に受講	3.44	1.10	3.26	1.12
13. 授業は有意義	3.65	1.08	3.66	1.09
15. 予習、復習はよくした	2.59	1.21	2.39	1.19
設問 1,2,3,4,5,6,9,10,12,13,15 の平均	3.51	1.09	3.35	1.11
7.時間を守って授業した	4.09	1.03	-	-
8.授業の目的が明確に示された	3.83	1.01	-	-
11.授業内容はよく理解できた	3.39	1.10	-	-
14.成績評価の方法は知っていた	3.69	1.29	-	-
設問 7,8,11,14 の平均	3.58	1.09	-	-

図表 3-2 全項目の平均得点分布

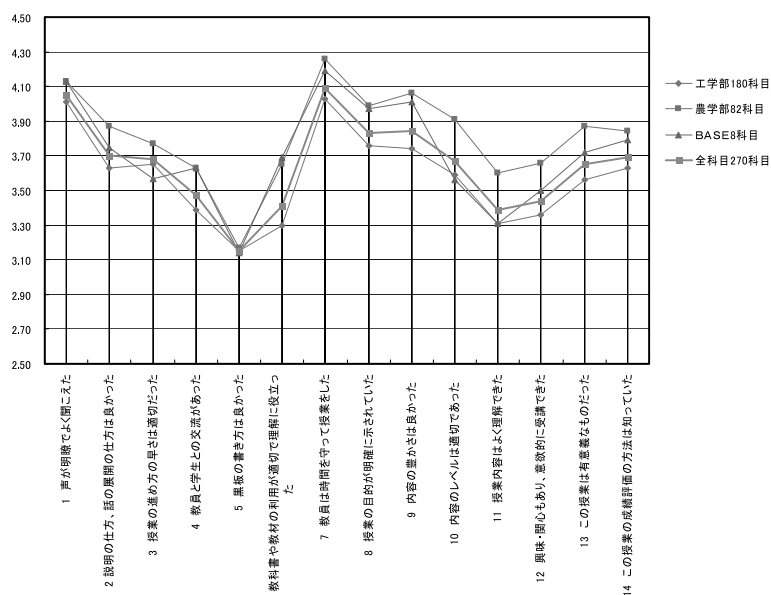


3-2.学部別に見た学部学生による授業評価の傾向

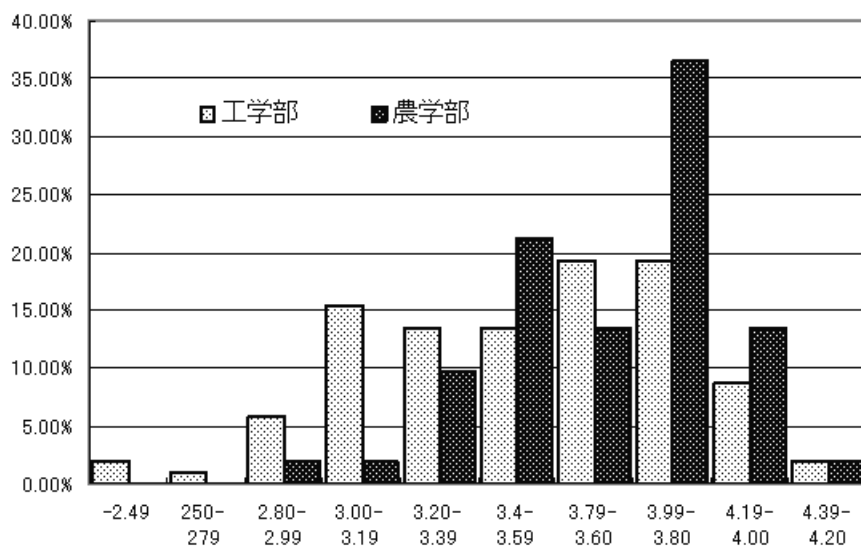
次に学部による差違について検討したい。図表3-3は2005年度の評価結果の学部別集計結果である。図は工学部180科目、農学部82科目、BASE8科目の評価結果の平均値をグラフで示している。「6 教科書や教材の利用」「8 授業の目的が明示」「9 内容の豊かさ」「10 内容のレベル」「11 授業内容はよく理解」「12 興味・関心、意欲的に受講」「13 授業は有意義」「14 授業の成績評価方法」については学部による差違が大きく現れ

ている。内容と意義づけ、興味関心、授業目的や成績評価方法の明示などは学部の特性などが反映されると考えられる。「1 声が明瞭」「2 説明の仕方、話の展開」「3 授業の進め方の早さ」「4 教員と学生との交流」「7 時間を守って授業」は比較的バラツキが少ない。教員個人の力量を反映したものといえよう。特に「5 黒板の書き方」は学部による差違はなく、学生達は一致した板書への評価を持つといえる。

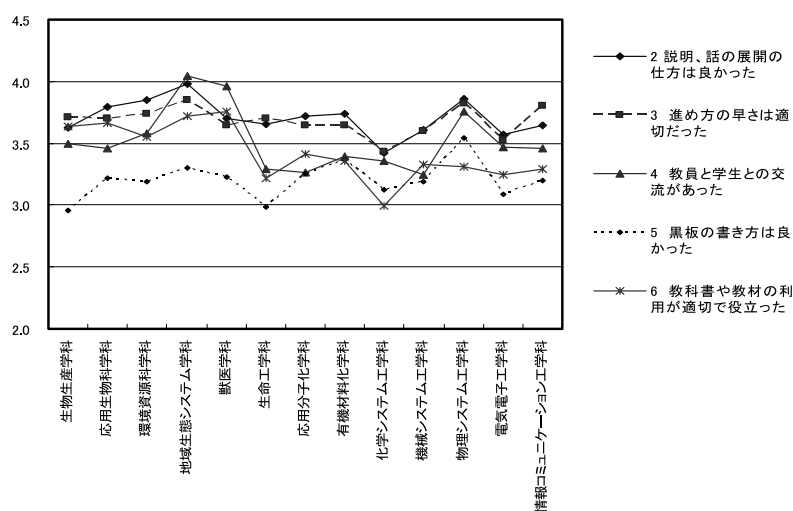
図表 3-3 学部別に見た授業評価



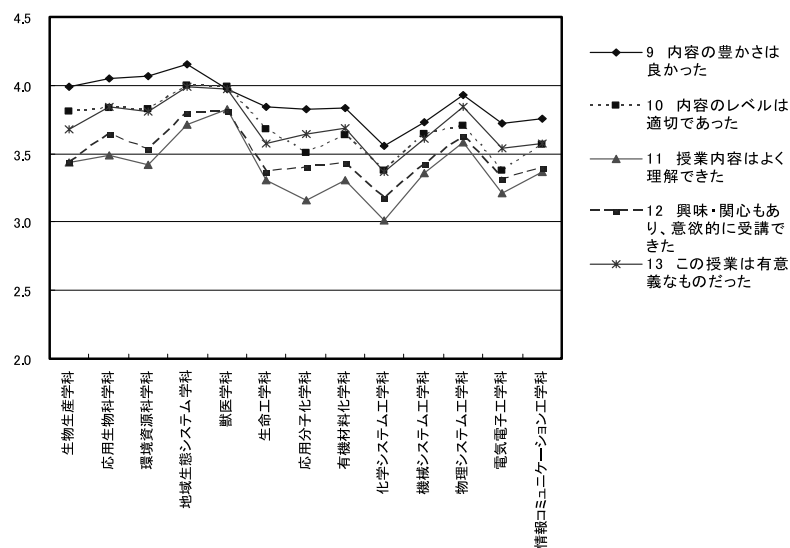
図表 3-4 学部別に見た授業評価得点の分布



図表 3-5 学科別に見た授業評価の得点比較 (その1)



図表 3-6 学科別に見た授業評価の得点比較 (その2)



図表3-4は常勤教員156名についての学部別に見た授業評価得点の分布である。工学部と農学部の学生の評価分布は学部によって異なる傾向を示している。工学部の分布は幅広く分布すること、高低の中間部は比較的平坦になっていることが特徴である。農学部の分布は高得点よりにピークがあること、ピークの得点に多くの授業が入っており、3.80～3.99の級間に35%以上の授業が属している。全授業の50%程度は3.80以上の高得点に属していることがわかる。3.60以下の授業が無くなることでこのレベルの授業評価アンケートの役割は完了できると考えたい。

脚注(3)の図表5-1は学部別に見た授業評価の得点と標準偏差を示している。設問1から設問14までの平均値で見ると評価水準は農学部、BASE、工学部の順になっている。BASEに関しては科目数が少ないので、比較は参考的なものにとらえる必要がある。「2 説明の仕方、話の展開」は工学部と農学部とでは標準偏差に若干の差違があるが、他の項目では差違が見いだせない。学生の評価の一致度は学部が異なっても同じであることがわかる。

3.3.学科別に見た授業評価

学部単位からさらに学科単位に評価結果を見ることに

したい。ここで扱う学科単位とは学生集団の帰属する学科の回答結果を意味している。教員の所属する学科の結果ではないことをお断りしたい。図表3-5と図表3-6は学科別に見た授業評価の得点比較である。前者は授業スキルに関するものであり、後者は授業内容に関わるものとした。ここで使用したデータは学科所属の常勤教員156名についてである。付属機関他の教員については扱っていない。学科による差違は顕著に見られる。また、特定の項目についてのみ低位にある学科も見られる。図表3-5では設問ごとの線が交差することが少ないことがわかる。内容の特徴や構成などから決定づけられる要素が大きいことを伺わせる。獣医学科と物理システム工学科における得点の幅は他学科と比較して少なく現れていることがわかる。

3.4.非常勤講師と常勤教員の比較

非常勤講師と常勤教員では学生の評価は異なるであろうか。2005年度から調査対象を拡大したことで、この検討が可能となった。図表3-7は常勤教員と非常勤講師別に見た授業評価を表わしている。設問1から14の平均で見ると差違はないと判断できる。また、設問ごとに見ても差違はほとんど無いといえる。

図表 3-7 常勤教員と非常勤講師別に見た授業評価

設問	常勤教員 N=186		非常勤講師 N=84	
	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差
1 声が明瞭でよく聞こえた	4.02	1.05	4.12	1.05
2 説明の仕方、話の展開の仕方は良かった	3.72	1.06	3.64	1.15
3 授業の進め方の早さは適切だった	3.69	1.03	3.66	1.08
4 教員と学生との交流があった	3.49	1.09	3.39	1.18
5 黒板の書き方は良かった	3.19	1.14	3.05	1.16
6 教科書や教材の利用が適切で理解に役立った	3.40	1.11	3.42	1.14
7 教員は時間を守って授業をした	4.10	1.02	4.07	1.06
8 授業の目的が明確に示されていた	3.85	0.98	3.78	1.08
9 内容の豊かさは良かった	3.86	0.95	3.78	1.04
10 内容のレベルは適切であった	3.69	0.99	3.64	1.06
11 授業内容はよく理解できた	3.41	1.07	3.34	1.16
12 興味・関心もあり、意欲的に受講できた	3.47	1.08	3.37	1.16
13 この授業は有意義なものだった	3.68	1.05	3.58	1.14
14 この授業の成績評価の方法は知っていた	3.72	1.27	3.62	1.32
設問1～14の平均	3.66	1.06	3.60	1.13
15 予習、復習はよくした方だ	2.62	1.21	2.50	1.20
16 シラバスを見たか	1.30	0.46	1.29	0.46
16-2 シラバスは学習に役立った	3.18	1.18	3.14	1.19

3.5.教員の自己評価と学生評価の比較

図表3-8は教員の自己評価と学生評価の比較を示している。右欄は「教員の自己評価得点－学生評価得点」を示している。全設問の平均で見ると0.4程度となっており、2004年度と比較すると格差は縮小している。「8 教科書や教材を工夫」「9 授業の意義が理解」「11 興味・関心、意欲的に受講」「15 授業の成績評価の方法」「16 予習、復習するように指導」は格差の大きい項目である。教員が努力したり、取り組みの程度に比して学生の実感が低位になる内容と考えられる。これらの内容については今後もどのように取り組むかはFDのテーマとして設定すべきと考えられる。これに対して「5 授業の進め方の早さ」「7 黒板の書き方」「6 学生との交流」は格差が

少ない。これらは見えるものであり、教員の実感としても学生の実感としてもほぼ同水準になると考えられる。

3.6.授業で使用しているメディアの種類

教員が授業でしようしているメディアの種類を図表3-9に示した。複数回答としたが一人あたり2.55件の回答があった。昨年度が2.57件であり、ほぼ同率といえる。2～3種類のメディアを使用しているといえる。2004年度と比較しても2005年度の傾向は大きな差は見られない。OHPが減少し、パワーポイント（以下コンピュータ・プレゼンテーションと記載）、実物の使用が増加している。コンピュータ・プレゼンテーションを使用する教員は40%近くにのぼることがわかる。

図表 3-8 教員の自己評価と学生評価の比較

設 問	教員評価 N=228		学生評価 N=9059		教員－ 学生
	平均値	標準 偏差	平均値	標準 偏差	
1 内容の豊かさは良かった	4.11	0.69	3.84	0.98	0.27
2 内容のレベルは適切であった	4.01	0.66	3.67	1.01	0.34
3 声が明瞭によく聞こえるようにした	4.38	0.70	4.05	1.05	0.33
4 説明の仕方、話の展開の仕方は良かった	3.90	0.71	3.70	1.09	0.20
5 授業の進め方の早さは適切だった	3.70	0.76	3.68	1.04	0.02
6 学生との交流を授業に入れた	3.62	1.03	3.47	1.12	0.15
7 黒板の書き方は良かった	3.29	0.86	3.15	1.14	0.14
8 教科書や教材を工夫して使用した	3.90	0.90	3.41	1.12	0.49
9 授業の意義が理解されるように努めた	4.30	0.66	3.65	1.08	0.65
10 授業の準備はよく行った方だ	4.22	0.71	—	—	—
11 興味・関心、意欲的に受講できるようにした	4.07	0.75	3.44	1.10	0.63
12 開始時刻及び終了時刻を遵守するよう努めた	4.36	0.82	4.09	1.03	0.27
13 学生の私語や態度について適切な指導をした	3.66	1.04	—	—	—
15 授業の成績評価の方法は学生に知らせた	4.57	0.78	3.69	1.29	0.88
16 予習、復習するように指導した	3.58	1.15	2.59	1.21	0.99
平均	3.98	0.81	3.57	1.10	.041

図表 3-9 使用メディアの種類（年度比較）

使用メディア	2005 年度前期 N=228		2004 年度前期 N=221	
	件数	%	件数	%
板書	186	81.58	184	83.26
プリント	159	69.74	149	67.42
実物	47	20.61	38	17.19
スライド	10	4.39	17	7.69
パワーポイント	92	40.35	77	34.84
OHP	18	7.89	34	15.38
ビデオ	28	12.28	30	13.57
録音テープ	16	7.02	11	4.98
チャート	1	0.44	1	0.45
その他	25	10.96	28	12.67
合計	582	255.26	569	257.47

3.7.大学院学生の授業評価結果と教員の自己評価

今回から大学院学生に対しても学部学生と同様な手続きでアンケートを実施した。図表3-10は大学院学生による授業評価の全般的傾向を示している。全ての設問で学部学生よりも大学院学生の授業評価は高く現れている。例えば「1 説明の仕方、話の展開の仕方は良かった」が学部学生の場合には3.70であるに対して、大学院学生は4.05である。「2 授業の進め方の早さは適切だった」についても学部学生は3.68であるに対して、大学院学生は4.02である。このようにして0.1~0.3程度、高い評価となっている。設問ごとにみると「4 教科書や教材の利用が適切で理解に役立った」と「10 授業内容はよく理解できた」は設問中では最も低位である。「7 授業の目的が

明確に示されていた」と「8 内容の豊かさは良かった」「1 説明の仕方、話の展開の仕方は良かった」「2 授業の進め方の早さは適切だった」は高い。このように授業の進め方は良いが、教材や、学習の理解という点で問題を残していることが伺える。

図表3-11は教育部別に見た大学院学生による授業評価を表わしている。設問1~14の平均値で見ると農学教育部、BASE教育部、工学教育部の順に評価が高い。農学教育部は「1 説明の仕方、話の展開の仕方」「2 授業の進め方の早さは適切」「9 内容のレベルは適切であった」「10 授業内容はよく理解できた」「11 興味・関心、意欲的に受講できた」で特に際だって高い評価となっている。

図表 3-10 大学院学生による授業評価の全般的傾向

実施時期	2005 年度前期 N=1996	
	平均値	標準偏差
設 問		
1 説明の仕方、話の展開の仕方は良かった	4.05	0.92
2 授業の進め方の早さは適切だった	4.02	0.92
3 教員と学生との交流があった	3.80	1.06
4 教科書や教材の利用が適切で理解に役立った	3.64	1.06
5 教員は時間を守って授業をした	4.33	0.87
7 授業の目的が明確に示されていた	4.10	0.91
8 内容の豊かさは良かった	4.08	0.90
9 内容のレベルは適切であった	3.86	0.96
10 授業内容はよく理解できた	3.62	1.05
11 興味・関心もあり、意欲的に受講できた	3.80	1.05
12 この授業は有意義なものだった	3.94	0.98
14 この授業の成績評価の方法は知っていた	3.81	1.28
設問 1~14 の平均	3.84	1.02
15 授業時間外の学習はよくした方だ	2.93	1.28
16 シラバスを見たか	1.43	0.50
16-2 シラバスは学習に役立った	3.50	1.18

図表 3-11 教育部別に見た大学院学生による授業評価

質問項目	工学教育部		農学教育部		BASE 教育部	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
1 説明の仕方、話の展開の仕方	4.00	0.94	4.15	0.93	4.05	0.83
2 授業の進め方の早さは適切	3.95	0.93	4.15	0.96	4.09	0.82
3 教員と学生との交流があった	3.87	1.02	3.87	1.12	3.48	1.08
4 教科書や教材の利用が適切	3.54	1.07	3.75	1.09	3.82	0.9
5 教員は時間を守って授業をした	4.25	0.90	4.53	0.79	4.34	0.85
7 授業の目的が明確に示されていた	4.07	0.91	4.22	0.90	4.00	0.91
8 内容の豊かさは良かった	4.04	0.89	4.12	0.94	4.15	0.87
9 内容のレベルは適切であった	3.80	0.96	4.02	0.96	3.84	0.96
10 授業内容はよく理解できた	3.50	1.05	3.85	1.02	3.69	1.02
11 興味・関心、意欲的に受講できた	3.76	1.06	3.89	1.06	3.81	0.98
12 この授業は有意義なものだった	3.88	0.99	4.01	0.99	4.04	0.90
14 成績評価の方法は知っていた	3.86	1.23	3.74	1.40	3.78	1.28
平均値①~⑭	3.88	1.00	4.03	1.01	3.92	0.95
15 授業時間外の学習はよくした方だ	3.01	1.22	2.86	1.37	2.72	1.30
16 シラバスを見たか	1.57	0.49	1.19	0.39	1.31	0.47
16-2 シラバスは学習に役立った	3.47	1.15	3.61	1.34	3.58	1.17

図表3-12は教員の自己評価と大学院学生による評価の比較を示している。学部学生の結果と大きく違う点は、大学院科目の場合には教員の自己評価と学生評価との間で差異があまり見られないことである。表の「教員－学生」の数値がこの格差を示している。設問によっては教員の方が学生よりも低い評価を持つものがある。例えば「4 説明の仕方、話の展開の仕方は良かった」「5 授業の進め方の早さは適切だった」「6 学生との交流を授業に

入れた」「12 開始時刻終了時刻を遵守するよう努めた」の各設問は学生評価が教員自己評価よりも上回る。この内容を見ると、教員が意識するより以上に学生が受けとめていると考えられる。

図表3-13は大学院授業と学部授業の使用メディアの種類を表わしている。ほぼ学部授業と同様の傾向にあるが、若干、コンピュータ・プレゼンテーションとビデオが多く、板書、プリント、実物の使用が少なくなっている。

図表 3-12 教員の自己評価と大学院学生による評価の比較

設 問	教員評価 N=93		学生評価 N=1996		教員－ 学生
	平均値	標準 偏差	平均値	標準 偏差	
1 内容の豊かさは良かった	4.15	0.55	4.08	0.90	0.07
2 内容のレベルは適切であった	3.91	0.65	3.86	0.96	0.05
3 声が明瞭によく聞こえるようにした	4.33	0.79	-	-	-
4 説明の仕方、話の展開の仕方は良かった	3.94	0.67	4.05	0.92	-0.11
5 授業の進め方の早さは適切だった	3.67	0.74	4.02	0.92	-0.35
6 学生との交流を授業に入れた	3.7	1.08	3.80	1.06	-0.10
7 黒板の書き方は良かった	3.31	0.91	-	-	-
8 教科書や教材を工夫して使用した	3.8	0.86	3.64	1.06	0.16
9 この授業の意義が理解されるように努めた	4.31	0.64	3.94	0.98	0.37
10 授業の準備はよく行った方だ	4.02	0.75	-	-	-
11 興味・関心、意欲的に受講できるようにした	4.01	0.64	3.80	1.05	0.21
12 開始時刻終了時刻を遵守するよう努めた	4.19	0.91	4.33	0.87	-0.14
13 学生の私語や態度について指導をした	3.5	1.04	-	-	-
15 成績評価の方法は学生に知らせた	4.35	0.91	3.81	1.28	0.54
16 予習、復習するように指導した	3.33	1.18	2.93	1.28	0.40
平均	3.90	0.82	3.84	1.03	0.10

図表 3-13 大学院授業と学部授業での使用メディア

使用メディア	2005 年度前期 大学院授業 N=93		2005 年度前期 学部授業 N=228	
	件数	%	件数	%
板書	70	75.27	186	81.58
プリント	60	64.52	159	69.74
実物	15	16.13	47	20.61
スライド	5	5.38	10	4.39
パワーポイント	45	48.39	92	40.35
OHP	7	7.53	18	7.89
ビデオ	15	16.13	28	12.28
録音テープ	1	1.08	16	7.02
チャート	2	2.15	1	0.44
その他	4	4.30	25	10.96
合計	224	240.86	582	255.26

4. 討論

4-1.2004年度と2005年度の比較とFD活動

評価結果を概括すると、学部学生に対する授業評価結果で見ると評価水準の向上が見いだせる。授業評価得点の水準においても、得点分布においても2005年度の回答結果は2004年度の結果よりも明確な改善結果をもたらしている。その理由として考えられる第1は、授業評価アンケートが定期的実施され、その結果を授業担当者が直接見ることが出来たことである。第2は自己評価を通して自分自身の授業に対する再認識をしたことによると考えられる。第3に学生の指摘に対する対処方法が比較的容易なものはすぐに解決できたということが反映したと考えられる。第4に全学実施ということから、他の教員の行う授業との比較で自分自身の授業評価を見ることが出来たことによると考えられる。第5は定期的に行うアンケートによって授業の改善結果が判定できると言うことにある。

一方、検討すべき課題も見いだせる。例えば、改善の困難度の高い項目や、簡単な練習でスキルアップができない項目については依然として低い評価に留まっている。これらは当然のことではあるが、日常的に活動していくFD活動と連動して改善が図られるものと考えたい。大学教育センターでは、今年度から「大学教育センター・リーフレットシリーズ」を3号発刊した。第1号ではよりよい授業のために（その1）として「学生アンケートで多く書かれていた意見をもとにした授業改善の指針」を解説したものである。第2号は「ティーチング・アシスタントと共に指導する」と題してTAセミナーの要点をまとめたものを発刊した。第3号ではよりよい授業のために（その2）として「学生による授業評価アンケートで多く記述される板書について、どう改善すればよいか」の内容で発刊した。これらの提案の原点は学生達が回答した授業評価アンケート結果に依拠している。また、定例FDセミナーにおいて、講義法の成功原則、プリント教材の作成、学生参加型授業の進め方、コンピュータ・プレゼンテーション教材の作成の仕方などを実施したが、ここにも授業評価アンケートの結果をもとにしてタイムリーと思われるものを計画した。成果として実るには時間的に先になると考えられるが、教員のFDへの参加や、FDの啓発的活動の結果が教員の授業の質的向上へとその認識を高めると考えられる。

前報告で述べたように、授業評価アンケートは当面の目標水準に合わせて計画し、実施している。出来れば、現在、行っている内容項目の水準を早く達成して次の水準に移行すべきと考えたい。その水準に移行することで、[授業の実施→新たな水準の授業評価→自己研鑽及びFD活動] サイクルに向かうことが出来るだろう。

4-2.授業評価のあり方

これまで、2年にわたって実施してきた授業評価アンケートの成果をふまえて、授業評価のあり方についてその課題を整理しておきたい。

第1はアンケートの役割についてである。授業評価は本来、教員が個別に行うもので、組織的にかつ同一設問で行われるものとは異なるように思う。しかし、現在の実施形態である全学的な授業水準の基準を示し、その水準との対比において個々の授業の位置が確認できることは重要な機能と言うことが出来よう。この機能を拡大解釈して教員の評価・査定に使用するとすると弊害や問題を引き起こすことになる。現在は行ってはいないが、教員側のアンケート結果に対する解釈や対応の仕方などを表明する機会も必要と考える。アンケート結果をもとにして次年度もしくは次回の授業に向けてどう取り組もうとしているか、指摘された事項はどう受けとめるかなどをまとめていくべきと考えたい。授業のPDCサイクルという観点からも重要な意味を持っている。

第2は長期的なFD活動の視点から見た授業評価アンケートの実施方法である。誰に対して、いつ、何回、どの程度の設問で行うかである。2005年度は一人一科目について実施したが、毎年、アンケート結果を持つべきかどうかということがある。一定水準を超えた評価を持つ教員については別のアンケートや例えば自由記述タイプのアンケートを実施するとか、隔年実施とすることも一つの選択肢として考えるとよいだろう。授業評価結果の良好な教員の方々にはそのノウハウや具体的な取り組み方法を指導していただくことも検討する必要がある。現在は講義を中心にアンケートを実施しているが、演習科目や実験科目なども当然ながら評価が求められる。この点についてもしかるべきガイドラインを定め、質的検討の素材としてのアンケートを組み立てていく必要がある。また、現在は主として期末に15回の授業を振り返って総括的に評価しているが、1回の授業についてその評価を問うことも重要であり、FD活動として行う授業研究、事例研究とかかわって効果が期待できる。

第3は授業評価の尺度と得られる成果についてである。尺度として、①教授スキル、②内容と構成、③教材と授業方法のマッチング、④授業目的の達成度などが考えられる。アンケート形式で問える内容とそうでないものが混在する以上、アンケートの範囲と解釈は限定的であるべきであろう。①はアンケート形式によって比較的容易に回答は得られるが、②については個々の教員の教育内容と関わるため、中味の問題を避けて通ることは出来ない。従って、内容の吟味が明確に出来るものを特定してのアンケートは意味があると考えられる。しかし、その問いの方法や解釈にはいくつかの課題

があると予想される。③についてはある程度の内容はアンケートで明らかにされ得るが質的な検討が必要となる。④はアンケートよりも到達度評価の課題を設定して解析することで判断が可能となろう。

このように考える時、現在実施している授業評価アンケートの機能及び解釈は限定的なものとなる。アンケート実施の意義を確認しつつ、その運用、データ解析と公開のあり方に留意すると同時に、FD活動への反映、日常の教員の取り組みを重視した実施となるよう努力する必要があると考えたい。

<注>

注(1)：「2005年度授業評価アンケート実施要領 2005.5.2」作成は以下の内容である。

1. 目的

授業評価アンケートは以下の活動に必要とされるデータを収集することを目的として実施する。

A) 教員が自らの授業を改善し、よりよい教育を実現するために必要な情報を提供する。

B) 本学の状況を把握し、今後の大学運営に必要な施策を策定するなどの目的で、組織の自己点検評価を実施し、また、第三者による評価(国立大学法人評価、機関別認証評価、外部評価など)を受ける。

C) 大学教育センターの専任教員がセンターの目的に適った研究活動を実施し、学内外に報告する。

なお、授業評価アンケートの結果は、教員評価(ないし個人評価)には使用しない。

2. 対象

A) 本学で授業を行うすべての教員(非常勤教員を含む)とする。学部・大学院の授業各々で担当する1科目を調査の対象とする。したがって、学部・大学院の双方の授業を担当する教員は年2回、いずれかのみを担当する教員は年1回、その担当授業科目が調査の対象となる。

B) 調査の対象となる授業科目としては、それぞれの教員毎に可能な限り履修学生数が多いものを選ぶ。しかし、履修学生数が少ない場合でも調査対象とする。

C) 原則としてオムニバス形式の授業は調査対象としない。

3. 実施方法と時期

A) アンケートの配布・回収は、前期6月～7月、後期12月～1月とする。

*なお、事務手続きや費用の都合により、受講生へのアンケート用紙の配布は、常勤教員においては、上記期間内であれば、担当教員が選択できる。非常勤教員は、時期を指定して実施する。

B) アンケート用紙は、受講生(学部用と大学院用の

区別有)および教員用のそれぞれを配布し、回収する。
C) 調査に先立ち、対象となった授業科目を当該教員に通知する。対象科目で授業評価を行うべきでないとする妥当な理由がある場合には、申し出に基づいて科目の変更を行う。

D) 対象教員に対しては、アンケート回収後、集計結果をフィードバックするとともに、その結果を受けての対応や意向等について調査を行う。

4. データの取り扱いに関する基本方針

A) 生データおよび授業科目単位で得られたその分析結果(以下、個別データとする)については、それが対応する授業科目(および担当教員)が特定できる形での提示は行わない。すなわち、データや結果等を提示する場合、大学、学部、学科や専攻などの単位による集計値や相関係数などの統計量によるか、あるいは、対応する授業科目を伏せる(例えば、自由記述の内容の例示)、などの措置をとる。

B) 上記原則の例外として、以下の3つの場合がある。

① 個別データ(の一部)は当該授業を担当した教員にフィードバックする

② 学生から高評価(例えば、総合評点平均4.0以上)を得た授業科目名および担当教員名を、学内に向けてのみWeb等を用いて公表する。

③ 本学ないしその一部(の部局等)が第三者評価(法人評価、認証評価、本学の依頼による外部評価など)を受ける際、個別データの提供が要請された場合には、守秘契約(ないしそれに準ずるもの)を結んだ上で、提供する。このような場合であっても、個別データに対応する教員を特定不能とするよう努める。

5. データの利用例

データは上記の目的および取り扱いに関する基本方針にしたがって使用する。具体的には、以下の例のような分析・利用を想定している。

- 科目毎の平均評点やその時系列変化等の算定と担当教員へのフィードバック

- 学科や専攻、あるいは科目群などを集計単位とする平均評点や分布の算定とその自己点検評価や第三者評価における利用

- 上記集計後の平均評点や分布の学内外への開示

- 多変量解析等を用いた評価項目間の関係の分析とその授業改善への応用

- 他のデータと調査データとの比較と良い授業を成立させる要因の抽出

6. 教員へのフィードバックの例外

受講生からの回答数が極端に少ない授業科目の集計結果については、回答者のプライバシー等を守るために、担当教員へのフィードバックを行わない。

注(2):「学生による授業評価アンケート用紙(学生用)」,「学生による授業評価アンケート用紙(大学院生用)」,および「教員用授業評価アンケート用紙」は下記の内容で構成した。

「学生による授業評価アンケート用紙」質問項目

(1) 授業について 「⑤ と思う, ④ まあと思う, ③ どちらともいえない, ② あまりそう思わない, ① そう思わない」

1. 声が明瞭でよく聞こえた
2. 説明の仕方, 話の展開の仕方は良かった
3. 授業の進め方の早さは適切だった
4. 教員と学生との交流があった(質疑応答や問答, 質問カードを含む)
5. 黒板の書き方は良かった
6. 教科書や教材の利用が適切で理解に役立った
7. 教員は時間を守って授業をした
8. 授業の目的が明確に示されていた
9. 内容の豊かさは良かった
10. 内容のレベルは適切であった
11. 授業内容は良く理解できた
12. 興味・関心もあり, 意欲的に受講できた
13. この授業は有意義なものだった
14. この授業の成績評価の方法は知っていた
15. 予習, 復習や授業時間外の学習はよくした方だ
16. シラバスを見ましたか [② 見た ① 見なかった]

② 見たと回答した方へ 16-2. シラバスは学習に役立った

(2) この授業についての意見・要望を「良い点」と「改善すべき点」に分けて自由に記入してください。

大学院生用

(1) 授業について 「⑤ と思う, ④ まあと思う, ③ どちらともいえない, ② あまりそう思わない, ① そう思わない」

1. 説明の仕方, 話の展開の仕方は良かった
2. 授業の進め方の早さは適切だった
3. 教員と学生との交流があった(質疑応答や問答, 質問カードを含む)
4. 教科書や教材の利用が適切で理解に役立った
5. 教員は時間を守って授業をした
6. 授業の仕方・態度について自由に意見を下の空欄に記入ください (良い点)(改善すべき点)
7. 授業の目的が明確に示されていた
8. 内容の豊かさは良かった
9. 内容のレベルは適切であった
10. 授業内容は良く理解できた
11. 興味・関心もあり, 意欲的に受講できた
12. この授業は有意義なものだった
13. 授業の内容・構成について自由に意見を下の空欄に

記入ください (良い点)(改善すべき点)

14. この授業の成績評価の方法は知っていた
15. 授業時間外の学習(予習, 復習や関連する内容の学習など)はよくした方だ

16. シラバスを見ましたか [② 見た ① 見なかった]

② 見たと回答した方へ 16-2. シラバスは学習に役立った

(2) その他, 授業の良かった点や悪かった点, 要望などがあれば自由に意見を下の空欄に記入ください。

「教員用授業評価アンケート用紙」質問項目

(1) 授業について 「⑤ と思う, ④ まあと思う, ③ どちらともいえない, ② あまりそう思わない, ① そう思わない」

1. 内容の豊かさは良かった
2. 内容のレベルは適切であった
3. 声が明瞭によく聞こえるようにした
4. 説明の仕方, 話の展開の仕方は良かった
5. 授業の進め方の早さは適切だった
6. 学生との交流を授業に入れた(質疑応答や問答, 質問カードを含む)
7. 黒板の書き方は良かった
8. 教科書や教材を工夫して使用した
9. この授業の意義が理解されるように努めた
10. 授業の準備はよく行った方だ
11. 興味・関心を引き出し, 意欲的に受講できるようにした
12. 授業の開始時刻及び終了時刻を遵守するよう努めた
13. 授業中の学生の私語や態度について適切な指導をした
14. 授業には次のどのメディアを使用しましたか, いくつでもマークしてください。

[⑩ 板書 ⑨ プリント ⑧ 実物 ⑦ スライド ⑥ パワーポイント ⑤ OHP ④ ビデオ ③ 録音テープ ② チャート ① その他]

15. この授業の成績評価の方法は学生に知らせた

16. 予習, 復讐するように指導した

(2) その他, この授業を振り返って, お考えになることがありましたら自由に記入してください。

注(3)：図表3-5～図表3-6を表わすに用いたデータを、図表5-1～図表5-4に示した。

図表 5-1 学部別に見た授業評価の得点と標準偏差

質問項目	工学部 180 科目		農学部 82 科目		BASE8 科目	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
1 声が明瞭	4.01	1.07	4.13	1.00	4.13	1.00
2 説明、話の展開の仕方	3.63	1.11	3.87	1.02	3.75	1.06
3 授業の進め方の早さ適切	3.65	1.05	3.77	0.99	3.57	1.15
4 教員と学生との交流あった	3.39	1.14	3.63	1.05	3.63	1.05
5 黒板の書き方は良かった	3.15	1.16	3.17	1.10	3.14	1.04
6 教科書や教材の利用適切	3.30	1.14	3.65	1.03	3.69	1.13
7 教員は時間を守って授業	4.03	1.07	4.26	0.92	4.19	1.03
8 授業の目的が明確	3.76	1.03	3.99	0.95	3.97	0.98
9 内容の豊かさは良かった	3.74	0.99	4.06	0.90	4.01	0.98
10 内容のレベル適切	3.59	1.02	3.91	0.92	3.56	1.11
11 授業内容はよく理解できた	3.31	1.12	3.60	1.01	3.31	1.17
12 興味・関心、意欲的に受講	3.36	1.11	3.66	1.05	3.50	1.08
13 授業は有意義	3.56	1.09	3.87	1.00	3.72	1.09
14 成績評価方法知っていた	3.63	1.28	3.84	1.29	3.79	1.24
平均値①～⑭	3.58	1.10	3.82	1.02	3.71	1.08
15 予習、復習はよくした方だ	2.62	1.21	2.47	1.19	3.1	1.2
16 シラバスを見たか	1.29	0.45	1.33	0.47	1.29	0.45
16-2 シラバスは学習に役立った	3.10	1.20	3.32	1.13	3.18	1.22

図表 5-2 学部別に見た授業評価の得点と標準偏差（その1）

学 科	生物生産学科		応用生物 科学科		環境資源 科学科		地域生態 システム学科		獣医学科	
	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差
1 声が明瞭	3.90	0.86	3.85	0.5	4.01	0.60	4.43	0.38	4.26	0.35
2 説明、話の展開の仕方	3.63	0.44	3.79	0.57	3.85	0.64	3.98	0.46	3.70	0.57
3 授業の進め方の早さ適切	3.71	0.29	3.71	0.47	3.74	0.54	3.85	0.32	3.65	0.40
4 教員と学生との交流あった	3.50	0.41	3.46	0.65	3.58	0.43	4.05	0.46	3.96	0.44
5 黒板の書き方は良かった	2.96	0.17	3.21	0.60	3.19	0.59	3.30	0.52	3.23	0.37
6 教科書や教材の利用適切	3.64	0.35	3.66	0.40	3.55	0.23	3.72	0.37	3.75	0.42
7 教員は時間を守って授業	4.38	0.20	4.25	0.36	4.25	0.55	4.24	0.48	4.09	0.46
8 授業の目的が明確	3.88	0.29	3.94	0.41	4.02	0.43	4.09	0.30	3.93	0.41
9 内容の豊かさは良かった	3.99	0.27	4.05	0.42	4.07	0.42	4.15	0.30	3.97	0.32
10 内容のレベル適切	3.81	0.18	3.84	0.30	3.82	0.68	3.99	0.32	3.99	0.18
11 授業内容はよく理解できた	3.44	0.27	3.49	0.38	3.42	0.72	3.71	0.38	3.82	0.21
12 興味・関心、意欲的に受講	3.44	0.25	3.64	0.44	3.53	0.64	3.80	0.33	3.81	0.33
13 授業は有意義	3.68	0.27	3.84	0.44	3.81	0.56	3.99	0.32	3.97	0.36
14 成績評価方法知っていた	4.02	0.43	3.68	0.49	3.72	0.66	4.05	0.64	3.89	0.42
15 予習、復習はよくした方だ	2.43	0.46	2.54	0.42	2.12	0.29	2.68	0.61	2.68	0.45
平均	3.63	0.34	3.74	0.46	3.64	0.53	3.87	0.41	3.78	0.38

図表 5-3 学科別に見た授業評価の得点と標準偏差（その 2）

学 科	生命工学科		応用分子 化学科		有機材料 化学科		化学システム 工学科	
	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差
1 声が明瞭	3.82	0.65	3.77	0.80	4.24	0.69	3.97	0.53
2 説明、話の展開の仕方	3.66	0.60	3.72	0.66	3.74	0.70	3.42	0.67
3 授業の進め方の早さ適切	3.70	0.39	3.64	0.30	3.64	0.41	3.43	0.48
4 教員と学生との交流あった	3.29	0.73	3.27	0.45	3.39	0.44	3.36	0.48
5 黒板の書き方は良かった	2.99	0.45	3.25	0.59	3.37	0.73	3.13	0.67
6 教科書や教材の利用適切	3.22	0.52	3.42	0.41	3.36	0.44	2.99	0.39
7 教員は時間を守って授業	4.18	0.27	4.29	0.33	3.89	0.75	4.14	0.29
8 授業の目的が明確	3.80	0.42	3.90	0.36	3.82	0.51	3.65	0.33
9 内容の豊かさは良かった	3.84	0.45	3.83	0.46	3.84	0.44	3.56	0.38
10 内容のレベル適切	3.68	0.56	3.50	0.36	3.63	0.35	3.38	0.31
11 授業内容はよく理解できた	3.30	0.67	3.16	0.39	3.30	0.55	3.01	0.32
12 興味・関心、意欲的に受講	3.37	0.55	3.40	0.41	3.43	0.47	3.18	0.42
13 授業は有意義	3.58	0.54	3.65	0.43	3.69	0.49	3.37	0.44
14 成績評価方法知っていた	3.56	0.37	3.71	0.55	3.92	0.77	3.37	0.38
15 予習、復習はよくした方だ	2.54	0.66	2.65	0.33	2.70	0.52	2.83	0.32
平均	3.50	0.52	3.54	0.45	3.60	0.55	3.38	0.43

図表 5-4 学科別に見た授業評価の得点と標準偏差（その 3）

学 科	機械システム 工学科		物理システム 工学科		電気電子 工学科		情報コミュニ ケーション工学 科	
	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差
1 声が明瞭	3.96	0.69	4.16	0.41	3.99	0.59	3.90	0.69
2 説明、話の展開の仕方	3.60	0.72	3.86	0.49	3.57	0.61	3.65	0.49
3 授業の進め方の早さ適切	3.60	0.60	3.82	0.41	3.53	0.50	3.80	0.38
4 教員と学生との交流あった	3.24	0.55	3.76	0.58	3.47	0.63	3.46	0.58
5 黒板の書き方は良かった	3.19	0.65	3.54	0.48	3.09	0.53	3.20	0.50
6 教科書や教材の利用適切	3.33	0.58	3.31	0.67	3.24	0.50	3.29	0.60
7 教員は時間を守って授業	3.94	0.72	4.04	0.73	3.79	0.65	4.00	0.55
8 授業の目的が明確	3.78	0.48	3.90	0.62	3.63	0.39	3.85	0.44
9 内容の豊かさは良かった	3.73	0.54	3.93	0.58	3.72	0.42	3.76	0.36
10 内容のレベル適切	3.65	0.37	3.71	0.40	3.38	0.59	3.57	0.36
11 授業内容はよく理解できた	3.36	0.47	3.58	0.34	3.22	0.64	3.37	0.44
12 興味・関心、意欲的に受講	3.42	0.53	3.63	0.45	3.31	0.39	3.39	0.43
13 授業は有意義	3.61	0.59	3.85	0.45	3.54	0.48	3.57	0.42
14 成績評価方法知っていた	3.56	0.52	3.81	0.36	3.70	0.48	3.84	0.48
15 予習、復習はよくした方だ	2.69	0.48	2.95	0.44	3.05	0.55	2.44	0.33
平均	3.51	0.57	3.72	0.50	3.48	0.53	3.54	0.47